

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成29年11月)

～気温要因、株高、インバウンドの好調などで現状判断は上昇～

- 景気ウォッチャー調査・11月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が3か月連続で上昇した一方、先行き判断は2か月ぶりの低下となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、例年よりも気温が低めに推移したことなどから、季節品の売行きが好調となったほか、インバウンド関連も引き続き堅調な動きをみせている。また、株高に伴う高額消費の増加なども重なり、概ね回復の動きが続く形となっている。
- 一方、先行きについては、株高による初売り等への好影響や、インバウンドの好調の持続などへの期待の声が聞かれる。また、今冬は気温が低めに推移するとの予報から、季節品の販売増に対する期待も大きい。ただし、北朝鮮をはじめとする世界情勢に対する先行き不安に加え、諸物価の上昇による消費マインドへの悪影響などを警戒する声も増えている。

「気温要因」関連のコメント(現状判断)

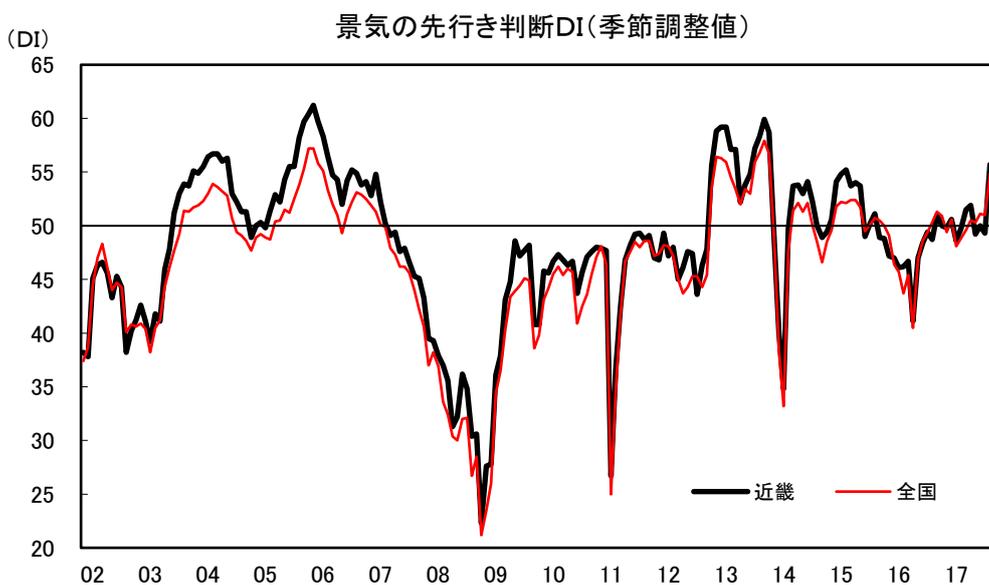
家計動向関連	良くなっている	百貨店(営業担当)	・気温の低下で、コートを中心とした重衣料の動きがとても良い。特選ブランドや高級時計といった高額商品の好調など、株高の影響とみられる動きも目立つ。また、客単価の高いインバウンド売上の増加も継続している。
	百貨店(マネージャー)	・11月は、前年比で2けた増に近いプラスとなっている。最低気温が前年比で2度低く、コートやブルゾンなどの冬物の防寒衣料が好調で、中間層にも動きが波及している。富裕層による美術品や宝飾品、時計などの高額品の購入も、株価の上昇を背景に好調が続いている。インバウンド消費に関しても、前年の2倍となるペースで推移している。	
やや良くなっている	百貨店(売場主任)	・今月の売上は、月間目標、前年水準共に上回る見込みである。インバウンドの好調が持続しており、月の経過と共に伸び続けている。また、国内の需要においても、気温の低下により、コートやニット、防寒用品などの季節商材が好調であり、全体の売上を押し上げている。客の購買意欲は少し上向きになっている。	
	百貨店(マネージャー)	・直近の売上は、店舗全体で前年を6%ほど上回っている。引き続き好調な訪日外国人売上が全体を押し上げている。訪日外国人売上を除いても1.5%増であり、国内消費にも堅調さがうかがえる。特選衣料や宝飾品、時計などの高額品も好調なほか、気温の低下もあってコートの売上が前年を20%程度上回り、単価を押し上げている。	
	百貨店(販促担当)	・今月は、気温の低下に伴って衣料品関連の動きが良好で、単価全体の上昇にもつながっている。堅調な雑貨や食品関連に加え、高額品も株高に支えられて好調に推移している。来客数も前年から増加しているなど、消費は好調となっている。	
	百貨店(サービス担当)	・今月もインバウンド効果に変化はなく、来客数の増加は顕著で、化粧品などを中心に大幅に売上が伸びている。また、急な寒さの影響で、冬物衣料も婦人服、紳士服共に、前年比で10%以上増えている。スイーツブームの影響により、食品品も洋菓子を中心に前年実績を大きくクリアしている。	
	百貨店(商品担当)	・訪日外国人による免税売上は好調を維持しているほか、国内需要も堅調である。化粧品のみならず、気温の低下とともに、婦人、紳士衣料や防寒用雑貨も、順調な動きとなっている。	
	百貨店(外商担当)	・インバウンド売上が、依然として前年比80~100%増で推移しており、高額品の宝石や時計、美術品の受注もかなり増えている。気温が低くなっている影響で、衣料品も健闘している。	
	百貨店(服飾品担当)	・11月に入り、気温の低下とともに、重衣料関連の動きが久しぶりに活発化したこともあり、都心店舗の売上は前年比で10%近いアップとなったほか、郊外店舗でも前年をやや上回る状況となった。全国的に婦人衣料が苦戦するなかで、アウター関連やネックウェアなどが軒並み売上を伸ばし、ブーツが苦戦していた靴関連も、やや回復傾向にある。しわ取りの効果がある化粧品の大型商品の売上も好調に推移し、クリスマス商材と共に売上がけん引している。株価上昇の影響もあり、輸入ブランドも年末商材やリゾート関連が動くなど、店舗に活気があふれている。	

家計動向関連	変わらない	一般小売店 [衣服] (経営者)	・ 今月は、気温の低下が例年よりも早い。コートやジャケットなどの重衣料関係の動き出しが、例年になく早かったため、久しぶりに前年を上回る実績となっている。
		百貨店 (売場主任)	・ 季節なりの気温の低下により、冬物衣料が好調に動いている。インバウンドの売上も減ることなく、好調を維持している。
		百貨店 (企画担当)	・ インバウンド売上は依然として好調で、前年からほぼ倍増という状況が続いている。富裕層である外商顧客の売上は、増加傾向が鈍化しつつあるものの、例年以上に気温が下がり、ボリューム層による冬物商材の購入は好調である。売上全体の増加額は、ここ数か月と大きく変わらない。
		百貨店 (マネージャー)	・ ファッションを取り巻く国内の環境に大きな改善はないが、当地区では10月に天候不順で冬物の防寒商材が苦戦したため、一気に動いて数値を押し上げている。ただし、全体的な消費の傾向は節約志向であり、今必要で役に立つ物に絞って購入している。
		百貨店 (役員)	・ 気温の低下で、コートやニットの冬物衣料は紳士、婦人共に動きが良いものの、単価は少し下がっている。冬物商戦はこれから本格化するが、中間所得層の商品購入は減っておらず、安くて質の良い商材が選ばれている。購入先は、百貨店や専門店だけではなく、インターネット通販も増えている。年末、迎春商戦については、お歳暮やおせち料理、外商を中心に前年並みで推移しているが、冬物商材、年末商戦の山場は12月である。
		百貨店 (宣伝担当)	・ 上半期に続き、下半期もこれまでと同じく、富裕層やインバウンドによる売上がけん引している。特に、免税売上は前年比で80%以上伸びている。今月は天候が安定し、気温も下がったことから、婦人服、紳士服共に、堅調な動きとなっている。
		スーパー (店長)	・ 気温の低下と野菜相場の上昇で単価が上がってきているが、買上点数が増加するまでには至っていない。
		スーパー (店長)	・ 気温の低下で、季節商材が前年よりも早く売れる傾向にあるが、この動きが続くとは考えていない。
		スーパー (店長)	・ 近隣の競合店の出店もあり、来客数が減少する流れは変わらず、苦戦している。気温の低下もあって、衣料品関係は好調に推移しているが、食料品は買上点数の減少で客単価が低下傾向にあるなど、消費者の生活防衛意識はますます高まっている。
		スーパー (経理担当)	・ 天候が比較的安定し、気温の低下も少し早いことから、売上は堅調に推移している。ブラックフライデー商戦も、まだまだ限定的ながら定着しつつある。
		スーパー (社員)	・ 今秋は例年よりも気温の低い日が多く、早くから鍋物商材などの動きが良くなると期待できる。ただし、急に寒くなったほか、天候が安定しない日も多いことから、客の来店がやや鈍っている。
		コンビニ (広告担当)	・ 小売の場合、季節変動の影響で単純に3か月前との比較はできないものの、前年比で大きな変化はない。少しは伸びているが、いろいろな施策による変動である。今年は寒くなるのが早いと、温かい商品の販売がどれだけ伸びるかが重要となっている。現状、海外や政治の影響は大きくないが、日々の消費者の購買意欲もそれほど大きくない。
		家電量販店 (人事担当)	・ 急に気温が下がり、暖房関連が伸びているが、前年に比べて来客数は減っている。
		その他専門店 [医薬品] (経営者)	・ 日による気温の差が大きく、体調不良や風邪の症状の客が増加し、風邪薬やドリンクの動きが少し良くなっている。
		なったり悪くなる	コンビニ (店員)
その他飲食 [自動販売機 (飲料)] (管理担当)	・ 気温が下がってきたので商品を入れ替えたが、その後は気温が不安定になっている。		

「北朝鮮・世界情勢」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	良くなる	百貨店 (マネージャー)	・ 現在のプラス要因である、冬物衣料、高額品、インバウンド消費が、今後もしばらくは好調に動く。北朝鮮の動向などの不安要素もあるが、京都市街への来街者の増加を背景に、入店客数は前年比で約3%増えている。客単価の5%上昇と合わせて、景気は回復している。
		百貨店 (営業担当)	・ 全体的に安心感が漂っている。ミサイルが発射されても、ニュースキャスターのコメントには緊迫感がない。世界から観光客が来日し、経済効果が出ているようなニュースが流れている間は、消費は堅調に推移する。
	変わらない	コンビニ (広告担当)	・ 海外情勢や天候などの外部要因が大きく変わらなければ、良くも悪くも変動は少ない。
		都市型ホテル (支配人)	・ 北朝鮮情勢の動向は気になるが、景気は現状と変わらない。
		都市型ホテル (客室担当)	・ 世界情勢による不安を抱えながらも、今月も訪日外国人比率は前年比で3.2ポイント上昇しているため、先行きも同じような動きが続く。
		都市型ホテル (管理担当)	・ アジアからのインバウンドに関しては、前年を上回る状況にあるが、海外情勢の変化で変動する不安定さもあるため、景気の方向性が見通せない。
		旅行代理店 (支店長)	・ 平昌オリンピックの開催で、家でのテレビ観戦による出控えが懸念される。ただし、現状も北朝鮮情勢の悪化で旅行は減少しており、それが出控えに変わるだけで、環境自体に変化はない。
	やや悪くなる	百貨店 (商品担当)	・ 米国の好景気による影響もあり、ボーナス商戦は何とか乗りきれても、地政学リスクの高まりやインバウンド顧客の頭打ちなどのリスクには要注意であり、油断はできない。
		乗用車販売店 (経営者)	・ 北朝鮮の地政学リスクや株価の下落など、世界的には不安要素がたくさんある。国内的にも、国有地売却関連や、獣医学部新設問題などが解決できないまま、今年が終わろうとしている。人手不足が深刻で、仕事があっても対応できない状態が続いているため、しばらくは消費を刺激するような材料もない。
		テーマパーク (職員)	・ 年末にかけて取りざたされている、米軍の軍事行動が最大の変動要因となる。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 15		16		17																				
		月 11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
現状判断	近畿	49.8	49.9	48.3	45.4	40.3	41.1	42.1	40.0	46.0	45.6	44.7	47.3	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	47.9	50.1	51.7	52.1	50.6	50.8	53.5	55.7
	(全国)	49.3	49.0	47.6	44.1	42.0	40.6	41.7	41.2	43.8	46.0	46.3	48.4	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	48.1	48.6	50.0	49.7	49.7	51.3	52.2	55.1
先行き判断	近畿	48.9	48.8	47.2	47.0	46.1	46.2	46.7	41.1	47.0	48.4	49.4	48.7	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6	49.7	51.5	51.9	49.2	50.0	49.3	55.7	52.4
	(全国)	50.5	50.0	49.1	46.4	45.7	43.7	45.4	40.5	46.9	48.6	49.4	50.3	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1	48.8	49.6	50.5	50.3	51.1	51.0	54.9	53.8